

地域の歩みを後世に

一関・大東 下内野自治会

21年ぶり記録集刊行 全世帯配布、出身者にも

一関市大東町の^{うしろの}下内野自治会 (勝部欣一会長) は、21年ぶりに度目となる、同自治会の歩みを記した記録集「緑と水の里しものちの 夢紀行 続20年の歩み」を刊行した。17日には下内野ふれあい会館で発刊祝賀会を開催。住民の紹介に加え、貴重な資料もあり、後世に地域の歴史を伝える一冊となっている。

祝賀会では、集まった住民約40人に夢紀行を配布。住民らは林を交わしながらページをめくり、思い出話に花を咲かせた。

A4判82页で150冊制作。地域の全41世帯の住民や屋号の紹介に加え、新聞記事や毎月1日に開催して

いる食事会の様子、農業関係の取り組みなどを紹介した。郷土芸能や旧来の結婚式の口上など貴重な資料も添付している。

最初の「夢紀行」は1995年3月、子どもたちの将来の夢を記そうと子どもたちの絵や文集を中心として発行した。今回は地域のさまざまな活動の進捗状況や文化、歴史などを次世代に引き継ぐと昨年秋ごろから自治会役員を中心とした編集委員会を組織し、作業を開始した。

編集長は3月まで緑のふるさと協力隊員として、同地域でさまざまな活動に参加した東京都八王子市の西田彩音さん(24)が担当。勝部会長ら10人が写真撮影や資料収集などを進めた。

今後、地域の全世帯に配布するほか、地域から嫁ぐ

女性や離れて暮らす地域出身者にもプレゼントする予定だ。

勝部会長は「前回から20年余りたち、地域づくりも進んだ。今回の発刊を機にさらなる地域づくりを進めたい」と誓っている。



祝賀会で配布された「夢紀行」を手に笑顔の下内野地域の住民ら